

2021年8月30日

三菱商事株式会社  
株式会社 INPEX  
JX 石油開発株式会社  
三井物産株式会社  
エルエヌジージャパン株式会社  
住友商事株式会社  
双日株式会社

## インドネシア タングーLNGプロジェクト インドネシア政府機関による CCUS 事業を含む開発計画の承認について

タングーLNG事業に携わる企業連合は、このたびオペレーターであるbpと推進するインドネシア西パプア州のタングーLNGプロジェクトにおいて、CCUS（注1）事業を含む開発計画についてSKK Migas（インドネシア石油ガス上流事業監督執行機関）の承認を得ましたので、お知らせいたします。

（注1）Carbon Capture, Utilization and Storageの略。排出されるCO<sub>2</sub>の回収、利用、貯留による温室効果ガス排出量の削減を図る技術。

本開発計画には、新規ガス田開発（ウバダリガス田）のほか、生産中のヴォルワタガス田におけるCCUS技術の適用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減および天然ガスの生産効率向上・増産事業が含まれております。本CCUS事業では、天然ガスの生産に伴い排出されるCO<sub>2</sub>を累計で約2,500万トン回収し、ヴォルワタガス田に再圧入・貯留することで、CO<sub>2</sub>の排出削減と同時に天然ガスの生産効率向上・増産を図ります（CO<sub>2</sub>-EGR（注2））。この結果、タングーLNGプロジェクト全体のCO<sub>2</sub>排出量が約半分に削減されることとなります。

（注2）CO<sub>2</sub>を利用した天然ガスの増進回収（Enhanced Gas Recovery）。

本開発計画では、タングーLNG事業に携わる企業連合およびSKK Migasによる承認を条件に、2022年半ば以降に基本設計（FEED）を開始し、更に最終投資決定を実施すれば、2026年から天然ガスの生産とCCUS事業を開始する予定であり、ウバダリガス田開発およびヴォルワタガス田でのCCUS事業により、CO<sub>2</sub>排出量削減と天然ガスの生産効率向上・増産の可能性を見込んでおります。

タングーLNG事業に携わる企業連合は、タングーLNGプロジェクトを通じ、低・脱炭素、循環型社会の実現に貢献してまいります。

## 参考資料:

タングーLNG基地はインドネシア西パプア州にあるビントウニ湾に所在し、bpをオペレーターとするコンソーシアムが、SKK Migas（インドネシア石油ガス上流事業監督執行機関）との契約に基づきその操業を請け負っています。

タングーLNGプロジェクトは、1日当たり14億立方フィートの天然ガスを生産しているプロジェクトです。現在建設工事中である第3系列の生産開始後は、1日当たり21億立方フィートの天然ガスを生産する予定です。タングーLNGプロジェクトはインドネシア政府の国家戦略プロジェクトに位置付けられています。

プロジェクトの権益構成は、bp40.22%、MI Berau 16.3%（三菱商事株式会社、株式会社INPEX）、中国海洋石油総公司（CNOOC）13.9%、日石ベラウ石油開発 12.23%（JX石油開発株式会社、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構）、ケージーベラウ石油開発 8.56%（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、三井物産株式会社、JX石油開発株式会社、三菱商事株式会社、株式会社INPEX）、Indonesia Natural Gas Resources Muturi Inc. 7.35%（エルエヌジージャパン株式会社(住友商事株式会社と双日株式会社の折半出資会社)）、ケージーウィリアガール石油開発 1.44%（三井物産株式会社）となっております。

### <案件地図>



### <液化プラント既存2系列および建設工事中の第3系列、LNGタンク、棧橋等>

